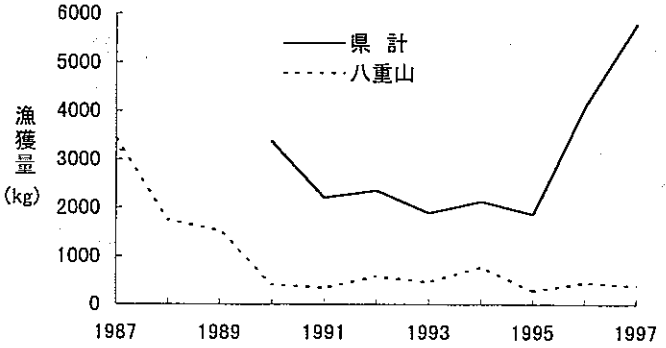
第Ⅰ章　漁業生物学的特徴

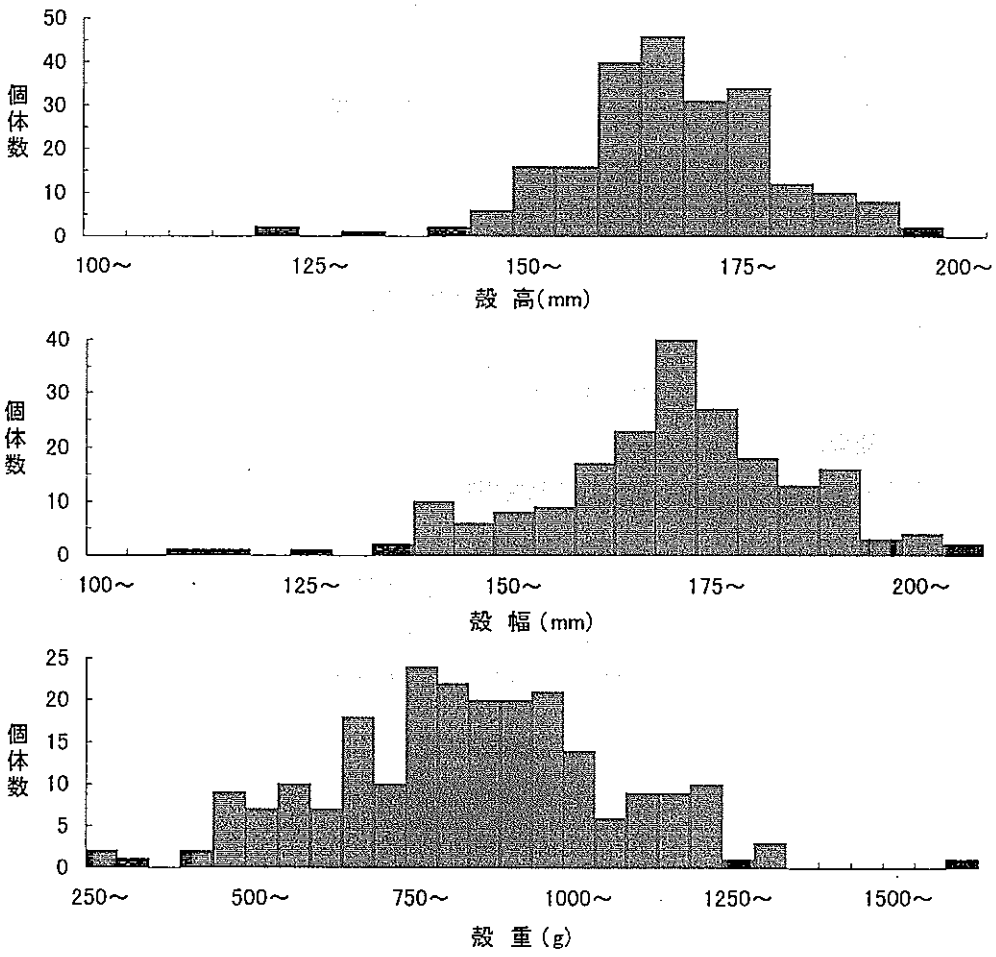
1．漁業実態

沖縄県でのヤコウガイの漁獲は全て潜水漁業により行われている。漁獲されたヤコウガイは、漁協のセリを通らず直接貝類仲買業者に販売されることも多く、正確な漁獲量を把握するのは難しい。そこで各漁協の取り扱いを集計した沖縄県水産試験場漁獲統計と県内の全漁協を対象として実施したアンケート調査から沖縄県全域でのヤコウガイ漁獲量を推定した（図Ⅰ－1）。ヤコウガイは、殻だけ、あるいは身だけで取り引きされることもあるが、その場合は殻と身を合わせた全重量に換算した。沖縄県内のヤコウガイ年間漁獲量は、1990年の3,370kgから1995年の1,870kgと減少傾向にあったが、1996年以降急増し1997年には5,780kgとなった。この2年間の急増は那覇近郊や久米島の漁協への水揚げ増によるものである。これまでは螺鈿細工用として、殻を韓国へ輸出するのが主要な流通経路であったが、1990年以降市場価格が下降傾向にある。那覇近郊では最近観光客向けの新たな需要が伸びてきており、それが漁獲増につながっているようである。

本事業の調査海域である八重山では、漁獲されたヤコウガイの全てが仲買業者との相対取引となっている。ヤコウガイを購入する貝類仲買業者は石垣島に4業者いる



図Ⅰ－1　ヤコウガイの漁獲量
（沖縄県水産試験場漁獲統計とアンケート調査に基づいた推定値）



図Ⅰ－2　ヤコウガイの漁獲サイズ